

# 授業計画案

## ■授業展開例

### 【授業展開例 1 (週 2 時間, 教科書順に授業を展開する場合)】

週に 2 時間と想定し, 1 レッスンあたりの配当時間を 3 時間とした。

- 1 時間目 : Word and Expression Input, Model Dialog (pp.20-21)
- 2 時間目 : Model Dialog, Speaking and Writing Output (pp.21-22)
- 3 時間目 : Speaking and Writing Output, GRAMMAR COMPASS, Give It a Shot (pp.22-23)

#### 1 時間目

	指導手順	留意事項	時間
1	Word and Expression Input (p.20) ① 写真に合う語句を選ぶ問題を解き, 解答を確認する。 ② 音声を聞かせて文章を完成させる問題を解き, 解答を確認する。 ③ WORD BANK の単語の発音と意味を確認する。 ④ WORD BANK の単語を用いて, クラブ活動についての簡単な対話をさせる。	EXPRESSIONS に挙げられた表現をしっかり定着させたい。また, ③では②の対話や表現を参考にしながら, クラブ活動についてペアで対話をさせる。	20 分
2	Model Dialog (p.21) ① 音声を聞かせ, TRUE OR FALSE と Comprehension を解かせる。 ② Sounds について解説した上で, 教師のあとに続いて音読させる。 ③ FUNCTION および GRAMMAR に挙げられた表現や文法事項を解説する。	Lesson のコアとなる部分であるため, 内容理解だけでなく, 扱われている文法事項や機能表現にも注目させたい。時間に余裕があれば, ペアで練習させ, そのあとに数ペアに発表させるとよい。	30 分

#### 2 時間目

	指導手順	留意事項	時間
1	Model Dialog 復習 (p.21) ① 全員で音読させる。 ② Shadowing をさせる。	音読時, Sounds で扱ったことを意識して発音できているかを確認する。	10 分
2	Speaking and Writing Output (p.22) ① 音声を聞かせて①の空所を埋めさせる。解答を確認したあと, ペアで対話の練習をさせる。 ② ②の表を見て, Daiki と Susie になりきって対話をさせる。 ③ 生徒にペアでクラブ活動や目標などをたずねる対話をさせ, ③の表にメモさせる。 ④ ④の発表例を参考にしながら, メモをもとに相手のクラブ活動と目標について発表させる。 ⑤ 宿題として, ⑤のガイドラインに沿って, 自分のクラブ活動に関する英文を書くように指示する。	モデル対話の Sounds で扱った音のつながりについて, 気をつけるべき箇所を具体的に指示してから練習させるとよい。 ②や③では, ①の対話やそこで用いられた表現を参考にさせる。 ④や⑤では, 生徒のレベルに合わせて適宜, 英文の話し始めや書き出しを与えるとよい。指導書付属 ROM 中のワークシートなども活用できる。	40 分

授業計画案をテキストデータで収録しました。  
多様な授業展開を想定し, 複数の授業案を収録しています。

# 観点別評価規準案

Part/Task	観点	技能	評価規準 (L: 聞く / R: 読む / I: 話す (やり取り) / P: 話す (発表) / W: 書く)
Word and Expression Input	知識技能	L	部活動やクラブに関連した語句を見て、その意味を判断することができる。
		R	対話の中で取り上げられる部活動やクラブ活動に関連した語句を聞いて、その意味を判断することができる。
	思考判断表現	I	インプットした部活動やクラブ活動に関連した語句を、ペアで対話する中で適切に活用することができる。
Model Dialog	知識技能	R	モデル対話を読んで、全体の大意を掴むことができる。
		R	重要な文法事項や機能表現を含む文がモデル対話の中でどのように用いられているのかに注目しながら、対話の流れを掴むことができる。また、Soundsで扱われた発音のテクニックを理解し、音読に活かすことができる。
	思考判断表現	I・P	モデル対話の流れ、機能表現、文法事項、そして発音のテクニックを言語活動の中で適切に活用することができる。
Speaking and Writing Output	知識技能	L	①の対話を聞いて、その大意を理解し、適切にディクテーションすることができる。
		I	②や③の活動の中で①の対話の流れやそれまでに学び得た語彙・表現を適切に活用することができる。
		P・W	④や⑤でクラスメイトや自分のことについて発表したり、書いたりする中で、学び得た語彙・表現を活用することができる。
	思考判断表現	I・P	ペアでのクラブ活動に関するやり取りを成立させたり、その内容を発表したりする上で、学び得た単語や表現機能表現、文法事項がどう役立つのかを自分なりに分析し、それを実際に表現することができる。
GRAMMAR COMPASS	知識技能	W	例文とその解説から「進行形」の意味や特徴を理解することができる。
		W	「進行形」に関する①・②の問題に正しく解答することができる。
		I	「進行形」を③の言語活動の中で適切に活用することができる。
	思考判断表現	I	自分の普段の生活スケジュールを「進行形」を用いてどのように説明できるのかを考え、自分の言葉で適切に述べるることができる。
		I	相手の生活スケジュールについての発話を正しく理解し、その内容と自分の生活スケジュールを照らし合わせながら、相手との即興のやり取りを成立させることができる。
Give It a Shot	知識技能	L	BobとMikiの対話を聞き取り、その内容を理解することができる。
		W	BobとMikiの対話から聞き取ったMikiの部活動に関する内容を整理し、これまでに学び得た語彙・表現、「進行形」などを駆使して、自分の言葉で表現することができる。
	思考判断表現	W	BobとMikiの対話から聞き取ったMikiの部活動に関する内容を表現する上で、どんな語彙や表現を用いればよいか、またどんな構成や展開にすべきなのかを自分なりに考え、実際に表現することができる。

Part/Task	観点	段階	評価規準
全体	主体的に学習に取り組む態度	1	単元目標を正しく理解し、自分がこのLessonで身につけるべきことや取り組むべき活動を概観しようとしている。
		2	部活動やクラブ活動についての言語活動に取り組むことを見据え、自分のことについて表現する上で必要な単語や機能表現、文法事項などを主体的に身につけようとしている。
		3	部活動やクラブ活動についての言語活動に取り組む中で、足りない語彙や表現を適宜補完したり、モデル対話の流れを思い出したりしながら、やり取りや発表を成立させるための自己調整をしている。
		4	Lesson全体の学びを振り返り、当初の目標に対して自分がどれくらい達成できたのかをメタ的にふり返ろうとしている。
		5	振り返りの内容から自分の課題を認識し、それを改善するために何をすべきかを自分なりに導き出そうとしている。

観点別評価規準案をテキストデータで収録しました。

4技能5領域の学習目標をPartやタスクごとに、3つの観点でまとめました。